

「がんの CT 診断最前線」

国立がん研究センター東病院 放射線診断科 小林達伺

1998 年に MDCT が発売されて以降，CT 機器の多列化が進み，様々な検出器数の CT 機器が発売されている．特殊な発展型として，2008 年に 320 列面検出器 CT (ADCT) である Aquilion ONE (東芝メディカルシステムズ) が発売され，さらに 128 スライス 2 管球搭載型 Dual Source CT (DSCT) である SOMATOM Definition Flash (シーメンス) が発売された．特徴的な発展を遂げた背景は，循環器系や脳神経領域への対応が主目的であり，臨床的にも心臓 CT や脳 Perfusion CT などで有用性が評価されている．当院では幸いにも両方の機器が導入されており，それぞれの特徴を生かした，がん画像診断への応用を目指し研究を行っている．本講演では，Aquilion ONE を中心に最新機器を使用したがんの CT 診断の現状を紹介する．